

19-1 大井川の蛇行絶景ポイントを探す（一部鉄道利用 距離約 14.5km）



「朝日段」から

【街歩きの概要】

大井川上流に近いこの辺りの蛇行は、穿入蛇行と呼ばれる、地盤隆起か海水面低下の影響を受けたもので、山岳地内を這うように存在するから、少々の高まりに立てば、空中から見たような素晴らしい河川蛇行が一望できそうである。地図を広げて大井川蛇行の絶景ポイント探しに出かける。

地図豆知識：自由蛇行と穿入蛇行

平野部の河川で、洪水のたびごとに流路の位置を変えられるような状態にある場合の蛇行を自由蛇行という。これに対して、山地や丘陵地などで蛇行した河川が深い河谷を作っている場合を穿入蛇行と呼ぶ。

穿入蛇行は、かつて平野上を自由蛇行していたような平らな地盤が何らかの理由で隆起し、あるいは海水面が低下したことで相対的に隆起した状態になったのち、ほぼもとの蛇行形態を維持しながら、谷をさらに深く掘り込む作用（下刻）によって形成される。

大井川中流は、もちろん穿入蛇行である。

地図豆知識：段丘

段丘とは、地殻変動による地盤隆起とその後の浸食などによりできる。その生成原因により、主に河川周辺にある河成（河岸段丘）、海岸近くにある海成（海岸）段丘のように呼ぶ。階段状、あるいは大きな段々畑といった地形だから、地図にあるように等高線の密な部分（急傾斜）と疎な部分（緩傾斜）が特徴的に現れる。

等高線とともに植生界を示す点線を鉛筆でなぞってみると明らかのように、旧河床が隆起した緩傾斜部分には耕地や住宅地が広がり、隆起の境目にあたる急傾斜部分は耕地に適さない樹林などになる。



地図豆知識：「地名（じな）」という地名

静岡県榛原郡川根本町に「地名（じな）」と呼ばれる地名がある。

地名村は、江戸時代以前から駿河国志太郡地名村として存在し、1889年（明治22）には、志太郡徳山村大字地名となり、1956年（昭和31）には合併して中川根村字地名となった。

「地名（じな）」の地名の由来はというと、「川名」、「山名」といったものと同様に、「〇〇のところ」というように使用されたものらしい。地図で分かるように、山が迫ったこの地域では、居住適地は限られていて、わずかな平地でも有効に利用されている。「地名」は「そうした土地のあるところ」ほどの意味だといわれる。

この地は、大井川の川止めのさいには、藤枝宿から山間部を抜けて、対岸の「石風呂」へ盥（たらい）舟を利用して渡った場所で、これを「地名の廻り越し」と呼んだといわれる。

【道順】

00 大井川鉄道 地名駅→01「地名」集落を眺める→02 日本一短いトンネル→03 地名用水→04 阿弥陀堂・大井神社・地名用水→05 西地名→06 水田縁の土手道→07 東海パルプ地名発電所跡→08 昭和橋→09 石風呂山頂から→10 鶴山大橋から→11 鶴山森林公園入り口→12 鶴山森林公園展望台から→13 再び地名駅→14 「恋金（吊）橋」→15 塩郷集落の上から→16 笹間渡駅→17 道の駅 笹間渡

【街歩き解説】

0 大井川鉄道 地名駅：地名駅で記念のシャッターを押して、野山歩きをスタートする。駅前看板には、「地名」をめぐる「ノスタルジックコース」の案内がある。

01 「地名」集落を眺める：駅裏の茶畑を抜けた集落のはずれから、扇状地状に広がる小さな「地名」集落を眺める。

まずは予定コースに沿って駅から東へ上り標高二四三メートルのポイントへ進む。小さな扇状地状の頂に当たるここからは、茶畑越しに「地名」のいわれになった山また山の中の小さな居住適地が見える。

集落のすぐ先には、河川の中に取り残されたような大きな森が迫って、広がりは一時的だ。予想通りだが、ここから大井川の流れは見えない。



標高二四三メートルのポイントから・日本一短いトンネル

02 日本一短いトンネル：地名駅に戻って、長さ11mほどの日本一短いトンネルを見る。もう一度、地名駅へ戻って線路沿いに進み、駅前看板にあった木材輸送用索道からの荷物落下を防ぐために作られたという、長さが十一メートルほどしかない日本一短いトンネルを見る。さすがに短い。

03 地名用水：尾根伝いに進み、小山の向こうから河川蛇行を見ようとしたが、道は森に埋もれて断念。等高線に沿うように地名用水が流れている。

予定してきコースに戻り、地名用水の流れる小さな公園を横切って、小山を巻くようにして、大きく広がる河川蛇行を見ようとしたが、森が深く、徒歩道は不安定だから予定を断念する。コースの変更だ

04 阿弥陀堂・大井神社・地名用水：阿弥陀堂と大井神社へ向かう石段の途中で、再び地名用水に出会う。

05 西地名：用水の水音を耳にししながら小さな段丘崖の坂道を上ると、坂の上には茶畑が広がり、製茶工場の大きな屋根も見える。

06 水田縁の土手道：右手柳の向こうに大井川の流れ、左手に西地名集落を見ながら、水田縁の土手道を進む。

再び地名の集落へ下り、家並の中の道を抜けて、阿弥陀堂と大井神社を目指す。大井神社に向かう石段の途中で、再び「地名用水」に出会う。同用水は、ほぼ標高一九〇メートルの等高線に沿って地名の集落を囲むように流れているようだ。

これから先は、用水の水音を耳にししながら段丘崖の坂道を上り、丘の茶畑の中を横切るよう進む。この程度の高まりでは、大きな広がりには期待できないが、大井川の流れを前面

に見ながら下る。下りきった、低地に広がる水田と大井川を仕切る土手道には、爽やかな風が流れ、柳の向こうに川の流れが少し見える。

07 東海パルプ地名発電所跡：レンガ造りの「東海パルプ地名発電所」跡を見る。
水田が終わると、明治四三年建造だというレンガが懐かしい「東海パルプ地名発電所」跡が突如現れる。右に折れて昭和橋を渡り、さらなる蛇行の風景を求めて「石風呂」集落の小山に向かう。



地名発電所跡・石風呂山頂から

08 昭和橋：昭和橋を渡り、蛇行の風景を求めて「石風呂」集落上の小山へ向かう。
「東海パルプ地名発電所」跡から、右に折れて昭和橋を渡り、さらなる蛇行の風景を求めて「石風呂」集落の小山に向かう。

09 石風呂山頂から：小山の森を一部伐採した茶畑の間からだけ蛇行の風景が見えるが、尾根の先端は樹木に遮られて蛇行の風景は見えない。

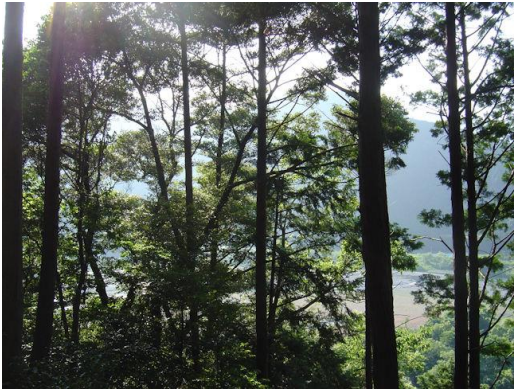
小さな峠にある人家脇の小道を数分上り頂に出ると、尾根の裏表（南北方向）だけ、樹木が伐採されて茶畑が広がっているから、茶畑の向こうに蛇行の風景が視界に入るものの、尾根の先端部分（東側）は樹木に遮られて、ここからも目的の広大な蛇行の風景は見えない。

10 鵜山大橋から：鵜山大橋からは、見事な蛇行の風景が広がる（最終結果として、ここが今回の蛇行の風景を見るベストポイントになった）。

最後の希望をかけて、鵜山大橋を渡り、静岡県天然記念物にもなっている「鵜山の七曲がり」に向かう。

途中、鵜山大橋からの展望には、遮るものもなく素晴らしい蛇行の風景が広がる。しかし、高さが十分でないから、ここから見える蛇行の風景に、鵜の口先のようなようになったようすは見られないので、さらに南に下がって次のポイントを目指す。

入口には、「鵜山森林公園」の看板があり、展望台の記入もあり、希望は膨らむ。上り下りを繰り返して展望ポイントに着くが、緑茂る初夏の木立からの眺めは、期待していたものにならなかった。



鷺山森林公園展望台から・鷺山大橋から

11 鷺山森林公園入り口：案内板にあるような「鷺山の七曲がり」の全容を見ようと「鷺山森林公園」の展望台を目指す。

12 鷺山森林公園展望台から：期待した展望台からも、木立に囲まれて蛇行の全容は見えない。森林公園広場を経て公園入口へ戻る。

13 再び地名駅：再び地名駅へ。

14 「恋金（吊）橋」：大井川鉄道塩郷駅まで乗車し、「恋金（吊）橋」を渡る。



「恋金橋」

15 塩郷集落の上から：「恋金橋」を経て、塩郷集落から蛇行の風景を目指したが、満足できるものではなかった。

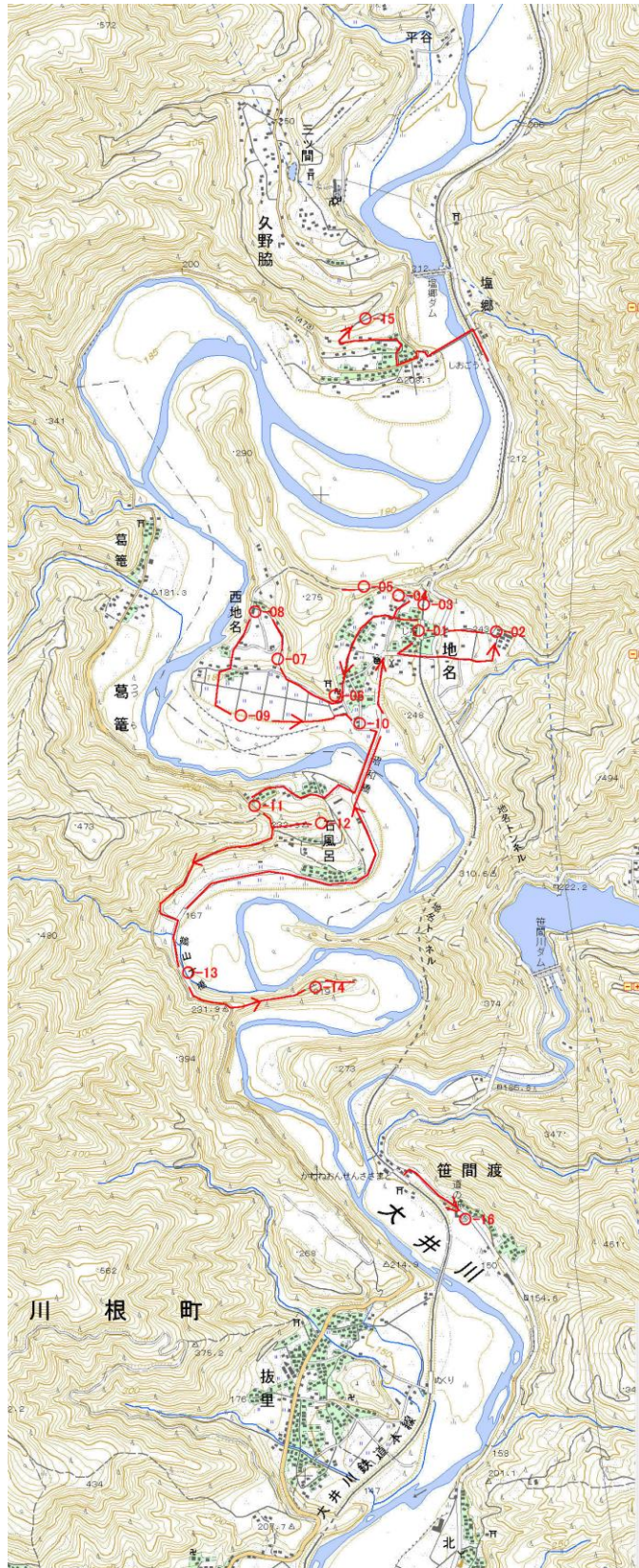
16 笹間渡駅：期待した風景に会うことができず、川根温泉笹間渡駅へもどる。

17 道の駅 笹間渡：道の駅の足湯につかりながら地図読みを反省したのち、川根温泉笹間渡駅から乗車して今回の野山歩きはお終い。

結果として、大井川の雄大な蛇行の風景の絶景ポイント探しは、鷺山大橋の車道脇からの展望がベストということで終わった（パンフレットによると、「地名」の南にある「家

山」から、やや整備が悪い林道を車で二十分ほど上った標高約六五〇メートル地点には、「朝日段」という大井川蛇行を一望できる展望台があるが、そこは広大な自然に勝っているのだろうか）。

ルートマップ



**** オフィス 地図豆 yamaoka mitsuharu ****

